
キラーT細胞とヘテロ抗体の併用による特異的
自己白血病細胞障害活性の誘導

課題番号 02454522

平成3年度科学研究費補助金（一般研究B）

研究成果報告書

平成4年3月

研究代表者 押 味 和 夫

（東京女子医科大学 医学部）

平成3年度文部省科学研究費補助金

(一般研究B) 研究成果報告書

研究組織

研究代表者: 押味和夫
(東京女子医科大学医学部)

研究分担者: 泉二登志子
(同上)

高橋正知
(同上)

赤星雅
(同上)

研究経費

平成2年度 2,800千円

平成3年度 800千円

計 3,600千円

研究発表

ア. 学会誌等

- (1) K Oshimi, T Seto, Y Oshimi, M Masuda, K Okumura, H Mizoguchi:
Increased lysis of patient CD10-positive leukemic cells by T
cells coated with anti-CD3 Fab' antibody cross-linked to anti-CD
10 Fab' antibody. Blood 77:1044-1049, 1991
- (2) T Kaneko, K Oshimi, T Seto, K Okumura, H Mizoguchi: A bispecific
antibody detects cytotoxic T lymphocytes of unknown antigen
specificity in patients with granular lymphocyte-proliferative
disorders. Br J Haematol in press

イ. 口頭発表

- (1) 押味和夫、溝口秀昭、勢藤隆: キラーT細胞と bispecific抗体の併用による特異的白血病細胞障害作用. 第32回日本臨床血液学会総会
平成2年9月26日
- (2) 金子多香子、押味和夫、溝口秀昭、房内幸博、角井康彦: bispecific
抗体とLAK細胞の併用による患者AML細胞障害作用. 第33回日本臨床血液学会総会 平成3年11月8日

研究目的

キラーT細胞を認識するモノクローナル抗体と患者白血病細胞を認識するモノクローナル抗体を結合したbispecific抗体を作製し、この抗体の添加により、キラーT細胞が患者白血病細胞を障害するか否かを検討した。

研究成果

本研究の成果は以下の英文論文に要約される。